

後悔しないお金の遣い方

東京都・学習院女子中等科 2年 國井 日南子

私のお小遣いは月に5,000円だった。しかしこれには理由がある。月5,000円で自分の身の回りのものをまかなう。教育費や必要最低限のものは両親が払ってくれるが、他は全てお小遣いでまかなうのだ。

この制度が始まったのは私が中学校に入学したとき。中学受験で忙しく、自分で買い物などほとんどしなかった私に金銭感覚を養おうと両親が話を持ちかけてきた。それまではお手伝いをして、それに見合ったお小遣いをもらうという制度だった私には輝かしい話だった。私はすぐに「やってみる！」

と言った。当時の私にとって、5,000円は大金だった。もちろんそれは今もである。なので5,000円あれば十分だと思った。しかし私は大切なことを忘れていた。それは貯金だ。身の回りのことは全て自分でまかなわなければならないということはこれから先、例えば長い休みに友達と遊園地に行くなど何か大金が必要なきのために少しでも貯金をしておかなければならないということだ。自由である反面、責任も伴うということに不安もあったが好奇心の方が大きかった。

この制度を始めるにあたって、母といくつかルールを決めた。全財産5,000円からスタートする。毎月の収入、支出をきちんと記録、収支を合わせて提出しないと翌月のお小遣いをもらえない、など守るべきことはいくつかあったけれどこれからのことを考えるとワクワクした。

いざ生活を始めてみると想像以上にお金がかかる。今までは両親に買ってもらっていた文房具や洋服も全て自分で買わなければならない。いかに自分が両親に安易に物を買ってもらっていたかを思い知った。

それから私は節約する方法を考えた。まずお店に行かないこと。しかしこれはショッピングが趣味の私にとってとても苦痛だった。だから、財布を持たずに出かける。お金がなければ買えないし、本当に欲しいものなのかどうか帰り道に

よく考える時間ができる。それでも欲しいものは今月はこれしか買わないと心に決めてから買う。その他にも友達と遊ぶときにはなるべく定期券内で遊んだり、雑誌は買わずに図書館や友達に借りるなど工夫した。これだけ聞いていると苦しように思えるかもしれないが、やってみると楽しんでいる自分がある。そして本当にお金を遣う価値があるものなのかどうかがよく見えてくるようになった。

ある時なぜお小遣いを5,000円にしたのか気になったので両親にたずねてみた。すると

「お金を遣うという意味をよく考えて欲しかった。それにはある程度余裕を持たせて支出、貯金の管理ができる金額、そして中学生ということを考慮して5,000円に決めた。今からお金をきちんと管理できれば大人になって自分が働いたお金も上手に遣えるはずだから。」

と言われて5,000円という金額にも意味があったのだと納得した。

貯金も順調に増えつつあった1年後、私に事件がおきた。買い物途中なにげなく立ち寄ったペットショップである犬と運命の出会いをしてしまった。以前から英検二級に合格したら犬を飼うという約束を両親としていた。本来ならば約束違反だ。しかしどうしてもあきらめきれず、両親に頼んで家族会議をした。その結果、英検二級は今年中に合格する、きちんと犬の面倒をみる、お小遣いを5,000円から3,000円に下げてその2,000円を犬の世話に充てるという条件を納得して受け入れられるなら飼ってもいいということになった。1年間自分でやりくりしてみて、お金の価値がわかり始めた私には2,000円の減額は正直厳しかった。今でも欲しいものを我慢していたのにこれから更に我慢しなくてはならないのだ。そこで私は冷静になってよく考えた。英検に合格してからならお小遣いを減らさずに犬は飼える。でもあの子犬を飼うことはできない。考えに考えた。それでもどうしてもあの子犬が欲しかった。だから両親の出した条件を受け入れた。そうすることでやりくりも苦しくなったし我慢しなくてはならないことも増えた。でも犬がいるということでお金では買えない幸せが生まれた。お小遣いを減らしてでもあの時犬を選んでよかったと今でも思っている。

私は自分でお金をやりくりするようになってから物を買う前に、本当にこれは自分にとって必要なものなのかを考えるようになった。実はあまり必要でなかったりするとせっかくのお金も無駄になってしまう。だからよく考えて後悔しない

ようにお金を遣う。それが活きたお金の遣い方だと私は思う。

私は犬を飼うという選択をすることで後悔しないお金の遣い方を初めて実感した。こういう経験を今後も生かしていきたいと思う。

